

眉をあげて



校長室便り 座間市立西中学校
第13(30)号 校長 牧野 淳志
令和3年12月16日発行

2学期を振り返って～その2～ 第55回 体育祭



去る、10月23日(土)西中学校第55回体育祭が開催されました。未明までの雨で、朝のグラウンドは田んぼ状態・・・それでも先生方や早く登校した生徒、保護者の有志の方が必死に整備をしてくださり、なんとか2時間半遅れでスタートできました。(感謝!)

コロナ対策で、身体接触や密になる競技(二人三脚やムカデ競走、綱引き等)、応援合戦が行われず、制約の多い体育祭でしたが、各競技や今年初めての試みの3年生のダンス発表など、西中生の力とまとまりを見せてくれた素晴らしい体育祭になりました。1, 2年生の保護者の方に参観していただかず本当に残念でしたが、応援してくださった3学年保護者の皆様、本当にありがとうございました。

体育祭考



今(12月現在)校長室で3年生の入試に向けて面接練習をしています。「中学校生活で思い出に残っていることは何ですか?」という質問に、多くの生徒が「体育祭です。」と答えます。理由を聞くと「仲間との協力の大切さを学んだ。」「人をまとめる難しさを経験した。」「あきらめずにやり抜くことができた。」「下級生との交流ができた。」「練習・本番とも本気で取り組めた」等々の様々な答えが返ってきます。これを聞くと私は、「3年生は行事を行う意義をしっかり受け止めて、一回り成長しているな!」と嬉しくなります。

西中(座間市全体的に同じ傾向ですが)の体育祭の特徴は、縦割り兄弟学級(色)編成、3学年合同でチームを組み練習しないと速くならないレク種目、応援合戦(今年はダンス)等の生徒が企画立案した演技種目の実施、生徒実行委員会を中心とした運営などです。実は、この形の体育祭には多くの準備と練習が必要です。

教師も生徒も1学期から準備をはじめ、2学期にも多くの練習時間を費やします。その分授業をすると随分進むなあ・・・と思うこともあるのですが、生徒たちは、授業だけでは学べない、リーダーシップ、フォローシップ、人をまとめる難しさ、どうすれば思いが伝わるか、うまくできなかった時の悔しさ、頑張り切った時の達成感、協力して成し遂げた時の感動、時には挫折ややるせなさを味わい、社会で生きていくためのキャリアを身につけてくれています。もちろん限られた時間の中で取り組まなければなりません。生徒たちはその中で、一生懸命に取り組み、大きな成果を残してくれたと思っています。

